

【添付資料 2】地質調査結果

平成 26 年度に本連合が実施した「B 焼却施設整備計画作成業務委託」の報告書では、事業予定地の地形、地質及び地下水について次のように示している。

ア. 地形

事業予定地及びその周囲の地形は、千曲川沿いに「低地」が広がっており、主に左岸側には“河原”、“砂礫堆”、“谷底平野”及び“扇状地”が、右岸側には“扇状地”や“自然堤防”が見られる。低地を越えたところは両岸とも「山地・丘陵地」となっており、“急斜面”が多く見られる。なお、事業予定地は「低地」の“扇状地 FIV”の範囲に含まれる。

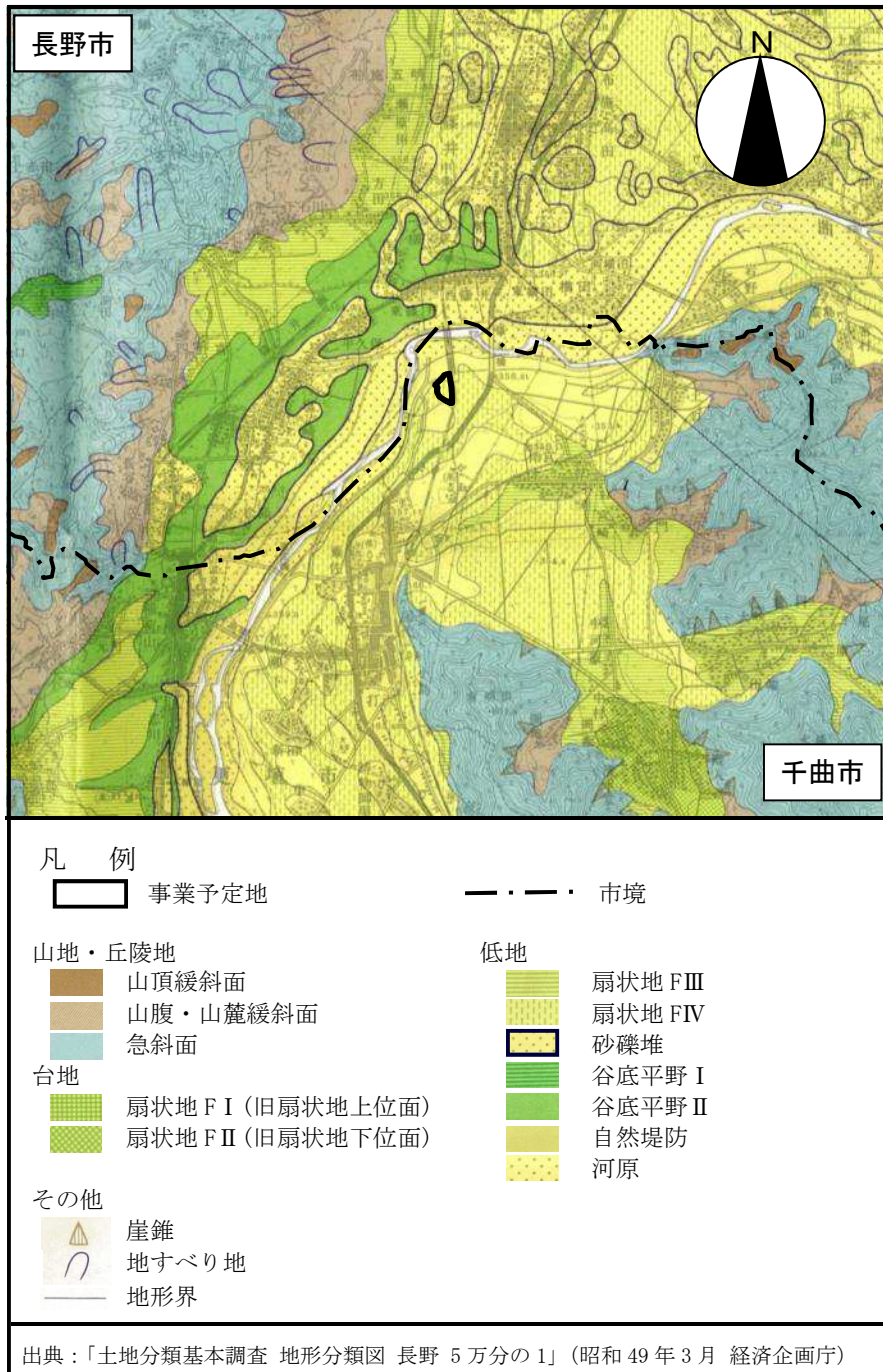


図 1 事業予定地及びその周辺の地形

イ. 地 質

事業予定地及びその周囲における表層地質を概括すると、事業予定地を含む千曲川沿いには“礫がち表土”が見られる。その他、平地では主に「未固結堆積物」の“礫がち堆積物”や“泥がち堆積物”となっている。

平成 25 年度に本連合が実施した「B 焼却施設地質調査業務委託」の報告書における地質調査結果（ボーリング柱状図）を図 2 から図 5 に示す。また、事業予定地の地層構成を表 1 のように示している。

表 1 地質調査結果

地層区分	記号	土質	N 値
上部細砂	as	最上部層で、厚さは 2.8～4.7m。 細砂を主体とし、上部に微細砂が多い。下部に中粒砂が見られる所もある。共に均一な粒子組成で、含水量が少なくさらさらしている。	1～10 代表N値 1
上部砂礫	ag1	厚さは 4.0～6.8m。 礫と砂が等量程度混入。礫は径 1～3 cm の硬質円礫を主とし、大きな礫は径 5 cm 程度が散在する。細粒分は少ない。	8～54 代表N値 17
中部砂	asg	厚さは 1.6～2.25m。 均一な中粒砂が主体で、径 1～4 cm の硬質円礫が少し混入する層も見られる。	18～31 代表N値 18
下部砂礫	ag2	上部砂礫と同様の組成。 細粒分は、目視で 10%以内と少ない所が多い。	22～115 代表N値 22、 30、50 等

ウ. 地下水

地下水位（平均）は、地質データ採取位置 3 地点において GL-2.97～4.41m であり、降雨の影響がある時を除き、水位変化が非常に少ない結果となっている。

透水係数は、現場透水試験の結果 $10^{-5} \sim 10^{-3} \text{m/s}$ 程度であった。

地下水の流れは、地下水位の差が非常に少ないことから、透水係数の値よりも 1～2 オーダーで遅い結果となっている。

地質想定断面図 SH=1:400 SV=1:200

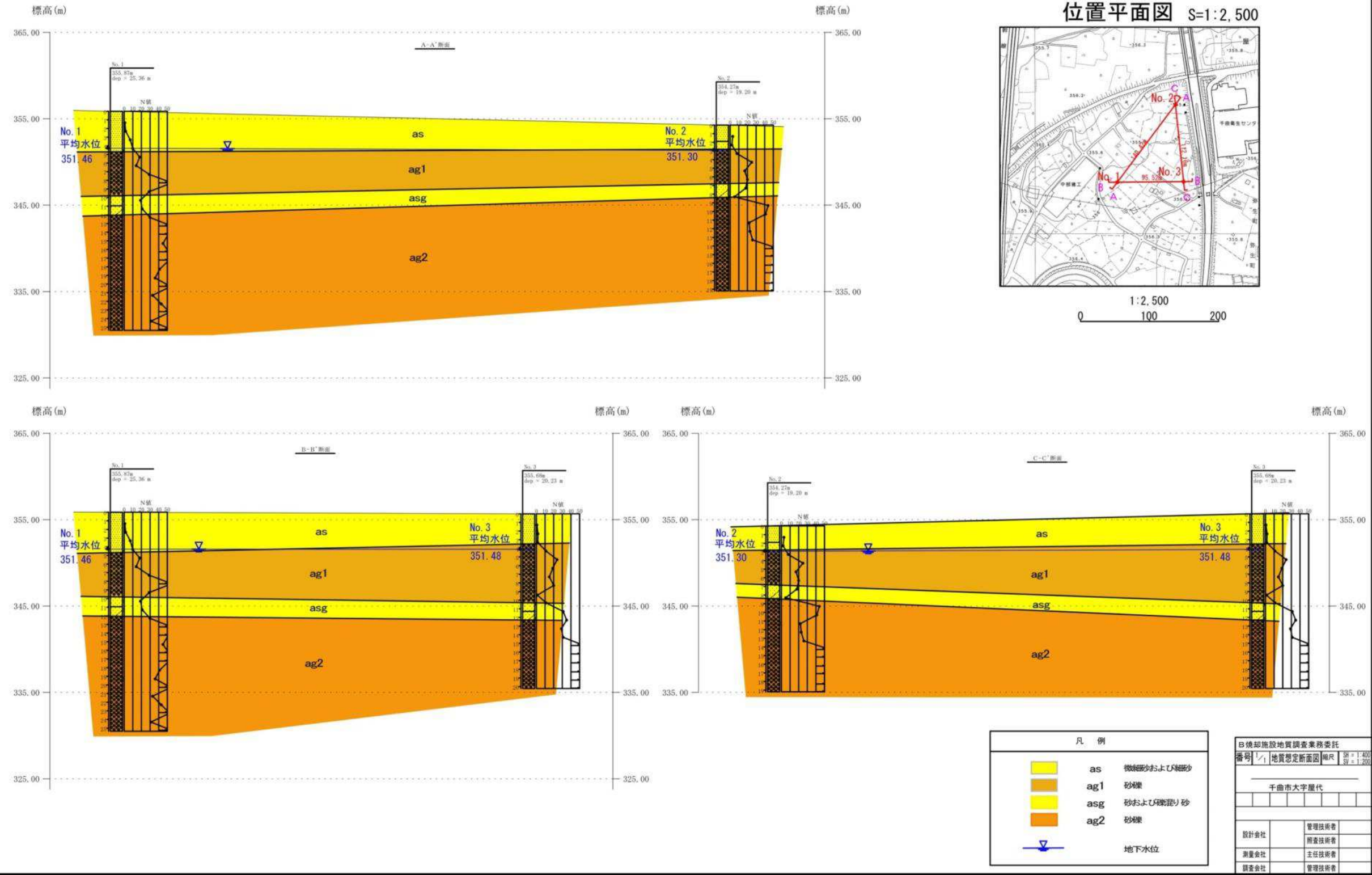


図2 地質データ採取位置及び推定断面

ボーリング柱状図

調査名 B 焼却施設地質調査業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 1		調査位置	千曲市大字屋代		北緯	36° 33' 16"			
発注機関	長野広域連合			調査期間	平成 25年 8月 6日 ~ 25年 8月 22日		東経	138° 8' 0"		
調査業者名	[会社名]		管理技術者	[氏名]		主任技術者	[氏名]		ボーリング責任者	[氏名]
孔口標高	355.87m	角	180° 上	90° 西	方	北 0°	地盤勾配	水平 0°		
総掘進長	25.36m	度	0°	0°	向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	使用機種	試錐機 YBM-1WA	ハンマー 落下用具	半自動落下
							エンジン	NFAD9	ポンプ	BG-3c

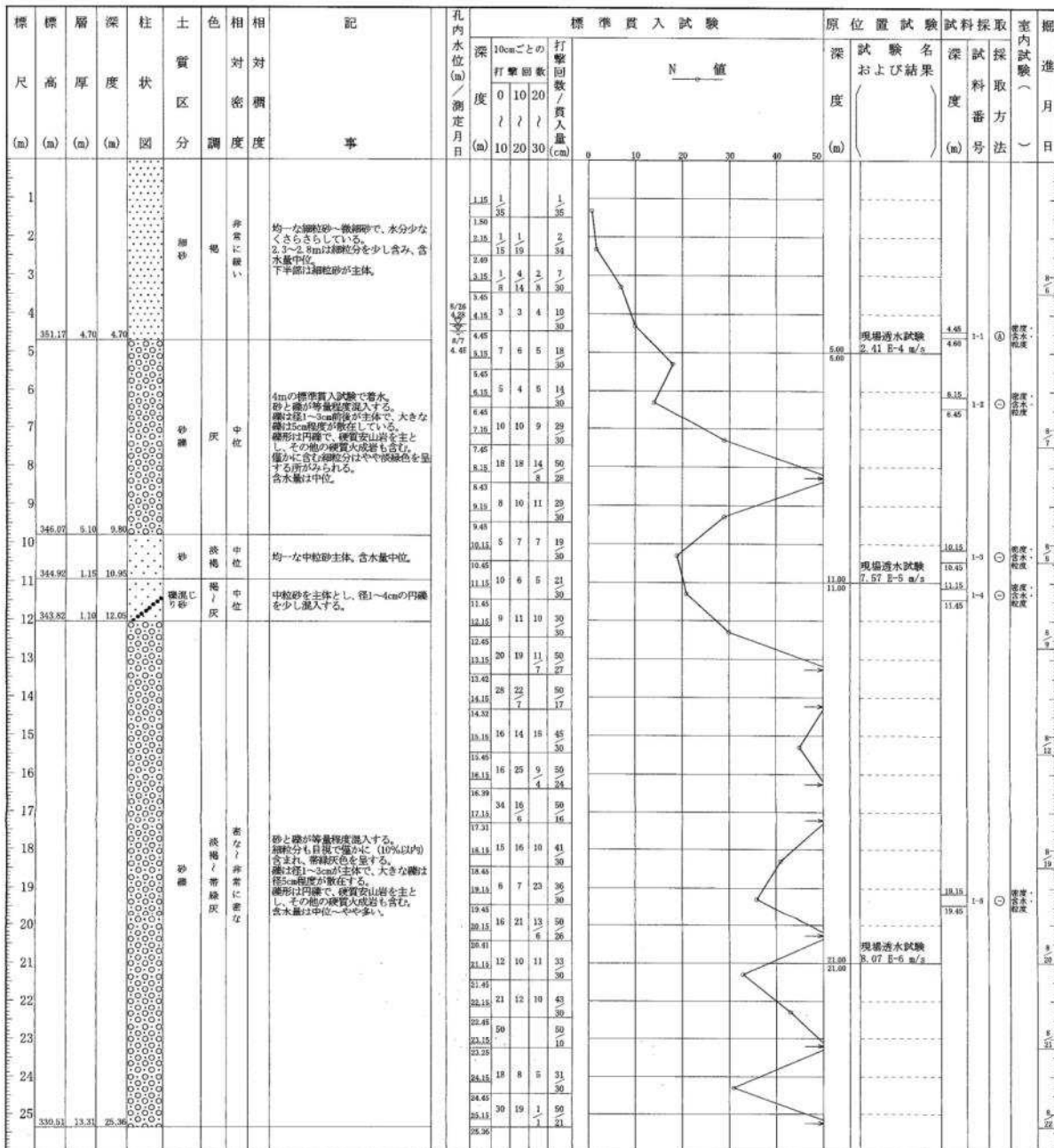


図3 地質データ (No. 1 孔)

ボーリング柱状図

調査名 B焼却施設地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 2	調査位置	千曲市大字屋代		北緯	36° 33' 17"					
発注機関	長野広域連合			調査期間	平成 25年 8月 5日 ~ 25年 8月 19日		東経	138° 8' 0"			
調査業者名	[会社名]			主任技術者	[氏名]		ボーリング責任者	[氏名]			
孔口標高	354.27m	角	190° 上 90° 下	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用試験機	YBM-17A	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	19.20m	度	0°	向				エンジン	NFAD9	ポンプ	BG-3c

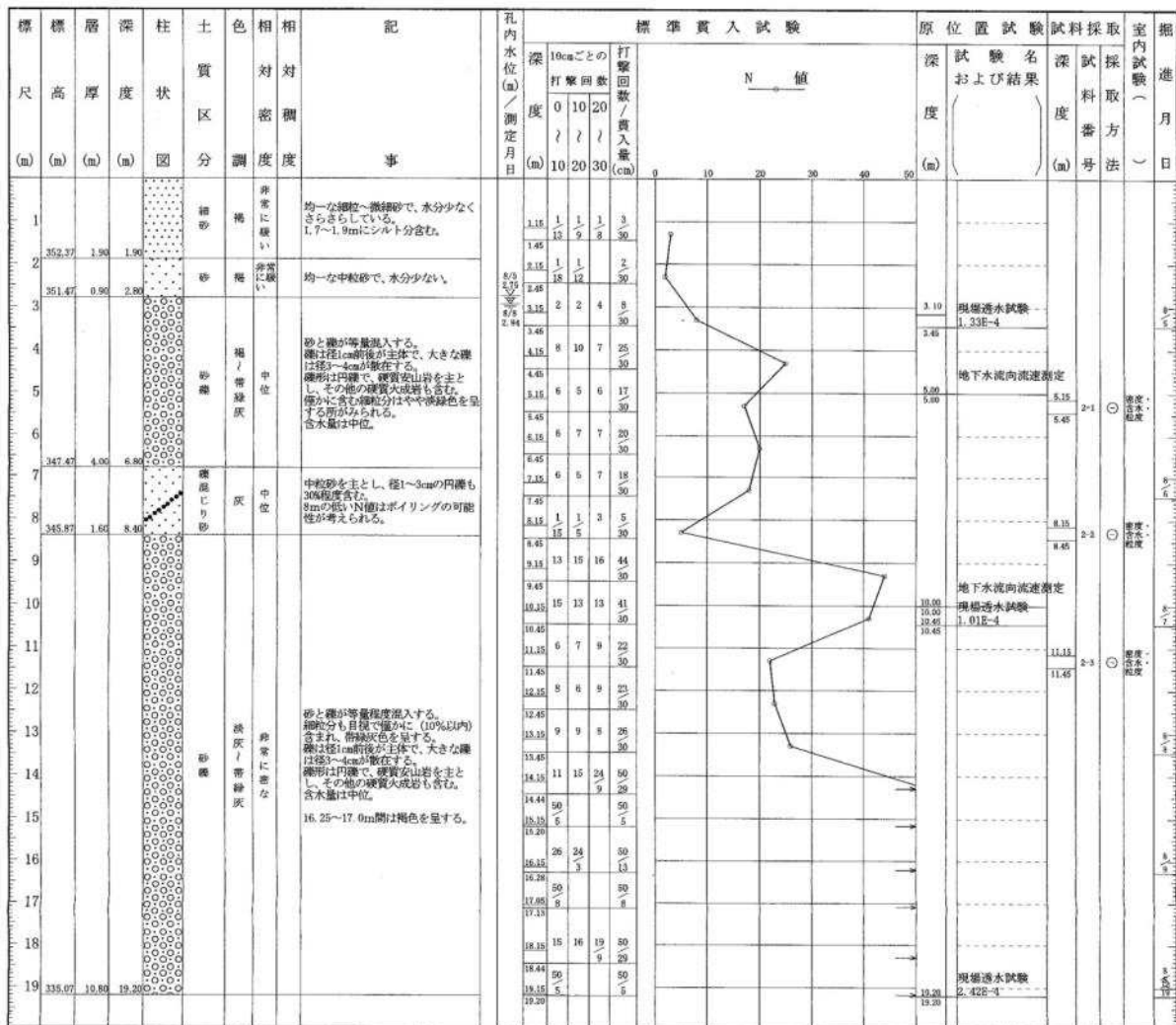


図4 地質データ (No 2 孔)

